



日本写真芸術学会

日本写真芸術学会創立 25 周年記念イベント

## 写真プリントセミナー ～新しいプリント時代の到来のために～

写真術発明以来、今日ほど写真表現が活発な時代はなかったと思います。そして今、写真は身近なコミュニケーションのツールとなったばかりではなく、アートの重要な表現手段の一つとなったと言えるでしょう。発表の場や方法も、美術館やギャラリー等でプリントを展示する方法やインスタレーション、プロジェクターやディスプレイを利用した上映、雑誌や写真集等の印刷媒体、ウェブサイトの利用等、多様となりました。このように発表の場や方法が広がったことに伴い、写真表現そのものが変化してきていると共に、その評価軸も多様になりました。一方、こうした時代的な変化に伴い、写真表現において、最も基本的かつ写真作品の根源ともいべきプリントが疎かにされる傾向があることも見逃すことができません。

今回のセミナーでは、銀塩写真の素晴らしさはもとより、インクジェットプリントの可能性、古典印画技法の活用の意義等、多岐に渡りながら、写真家、美術館学芸員、ギャラリー、ラボ、カメラメーカー等、様々な立場から、写真表現とプリントの今後について語って頂き、広く多くの方々にお集まり頂いて、共に考えたいと思います。

日時 平成 28 年 11 月 25 日 (金)  
9:50 ~ 17:50 (9:30 受付開始)

会場 東京工芸大学 中野キャンパス  
芸術情報館 1 階メインホール  
〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5



(地下鉄丸の内線・都営大江戸線 中野坂上駅より徒歩約 7 分)

主催 日本写真芸術学会

# セミナープログラム

9:30

受付開始

9:50

開会挨拶 日本写真芸術学会会長 内藤 明

9:55 - 10:05

セミナー開催の目的 セミナー実行委員長 吉田 成

10:10 - 10:55

講演 1. 銀塩を超えたデジタルプリント

写真家 塚原 琢哉

私が長い間個展という場で発表してきた作品は、絵画のタブロー性を意識したプリントだ。当初は銀塩の媒体だったが、フィルムに替わるデジタル時代がやってきて、この15年は写真産業の目覚ましい改革の恩恵を得て、私はデジタルプリントを自由に仕上げる事ができるようになった。

11:00 - 11:35

講演 2. プリント作品を収集・保存することについて - 東京都写真美術館の場合

東京都写真美術館学芸員 藤村 里美

東京都写真美術館では1988年より作品の収集を開始している。基本となる収集対象は、今日まで写真家たちが表現や記録の最終形態として重きをおいてきたオリジナル・プリントとしての写真作品である。近年プリントのメディアも変化しており、その保存方法も再検討を図らなければいけない。リニューアルの際に、収蔵庫を改修したことも含め、美術館が写真を収集・保存することについて言及する。

11:40 - 12:05

講演 3. デジタルフォト時代のプリントの重要性 ～カメラメーカーの立場より～

株式会社ニコン 映像事業部後藤研究室 室長 後藤 哲朗

「綺麗」、「早い」、「使い易い」を合言葉にスタートしたデジタルカメラは高度に発達したデジタル技術によって「つながる」時代に入り、様々な楽しみ方や発表の方法に対応して来ている。ここでプリントの重要性について改めて再考し、写真の原点を振り返りたい。

～ 昼食休憩 (50分) ～

(大学の学食がご利用になれます。)

12:55 - 13:25

企業ブース見学

13:30 - 14:05

講演 4. デジタル革命の進行と写真マーケット

ブリッツ・インターナショナル代表 福川 芳郎

いまデジタル化の進行で写真作品自体が大きく変化している。作家は様々なアナログの制約から解放され、真に自由に自分のテーマやコンセプトの表現が可能になった。いまや写真は現代アート表現の一部になったといえるだろう。現在も進行中のデジタル革命の現実を、写真マーケットやコレクターの視点から検証したい。

14:10 - 14:55

**講演 5. 時を経ても、物として存在する意義 —銀塩写真の魅力—**

**写真家 広川 泰士**

近年 SNS 等での情報伝達の量やスピードには、目を見張るものがあります。写真においても撮影したその場で遠方にも送ることが出来、一瞬のうちに世界中の多くの人々と共有することが出来ます。この便利さは、いまさら特筆すべきことではありませんが、多量に飛び交った画像は、何処にあるのでしょうか？例えば記念すべき子供の写真は写したその場で見る事が出来、一瞬のうちに遠方の祖父母に届けることができますが、10年、20年後に見ることは出来るのでしょうか？

～ 休憩（10分）～

15:05 - 15:30

**企業ブース見学**

15:35 - 16:10

**講演 6. オルタナティブプロセスの現在**

**PGI 西丸 雅之**

写真のデジタル化が一気に進む一方で、世界的にプラチナプリントやウェットコロジオン、サイアノタイプなどオルタナティブプロセスでの作品制作が盛んに行われている。今ではインクジェットプリンターを使ったネガ制作も不可欠な存在となり、年々進化を続けている。自らの経験を交えてオルタナティブプロセスのトレンドを紹介する。

16:15 - 17:00

**講演 7. もう一度、<見る>ことの困難さとともに**

**写真家 新井 卓**

不確かで移ろいゆく現実を「真実」というファンタジーで除霊することなく、写真は、いかにして<見る>ことの困難さとともにありえるのか。美術館やギャラリーといった空間が制度化したいま、写真を見る／見せる行為とはなにか、批判的に考察する。

17:05 - 17:40

**講演 8. 作品の本質を引き出すプリントづくり**

**株式会社アフロ 松平 光弘**

プリンティング・ディレクターとしての私がプリント制作で最も大切にしていることは、作家の思いや意図を深く理解することです。作家がその作品を通して何を伝えたいのか、どのように表現したいのか等を対話の中から引き出し、最終的なプリントの仕上がりを共有していきます。本講演では、こうした過程を分かり易く解説します。

17:45

**閉会挨拶 日本写真芸術学会副会長 高橋 則英**

## **企業ブース出展** (予定)

EIZO 株式会社

エプソン販売株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

株式会社写真弘社

株式会社ピクトリコ

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社

株式会社堀内カラー

# 参加申し込みについて

## セミナー参加費

本学会会員：1,000円 一般：2,000円 学生：無料（但し、メールにて事前登録をして下さい。jsahp@nihon-u.ac.jp）

## 定員

140名（定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込み下さい。）

## 申込締切

平成28年11月7日（月）

## 申込方法

このプログラムに同封されている郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、セミナー参加費をお振り込み頂き、セミナー当日、払込受領証をご持参下さい。また、懇親会に参加ご希望の方は会費も合わせお振り込み下さい。

郵便局備え付けの振替用紙でもお申し込み頂けます。その際は参加費区分、懇親会参加の有無を通信欄にお書き下さい。なお、一旦振り込まれた参加費の返却は致しかねますので、ご都合が悪くなった場合には代理の方の参加等でご対処をお願い申し上げます。

## 送り先

〒176-0005 東京都練馬区旭丘2-42-1 日本大学芸術学部写真学科内  
日本写真芸術学会  
Tel. 03-5995-8858 Fax. 03-5995-4721  
郵便振替口座番号：00100 - 0 - 600408

# 懇親会について

講演者と参加者の自由な討論の場、および参加者相互の情報交換や交流を深める場として、セミナー終了後に下記のとおり懇親会を開きます。参加ご希望の方は郵便振替用紙の該当欄にその旨をご記入の上、会費をお送り下さい。

日 時：当日11月25日18時00分より  
場 所：東京工芸大学2号館地下1階「プレイス」  
会 費：500円

# 企画

## 日本写真芸術学会

会 長：内藤 明（東京工芸大学）  
副会長：高橋 則英（日本大学）  
吉田 成（東京工芸大学）

## 写真プリントセミナー実行委員会

委員長：吉田 成（東京工芸大学）  
委 員：上田 耕一郎（東京工芸大学）  
佐藤 英裕（日本大学）  
高橋 則英（日本大学）  
田中 仁（東京工芸大学）  
西垣 仁美（日本大学）

## 日本写真芸術学会にご入会下さい

この機会に、会員でない皆様には当学会に入会されることをおすすめします。下記学会事務局にお問い合わせ下さい。

日本写真芸術学会 事務局  
〒176-0005 東京都練馬区旭丘2-42-1  
日本大学芸術学部写真学科内  
Tel. 03-5995-8858 Fax. 03-5995-4721  
URL <http://www.jsahp.org/>